

5/29 – Lecture 5.

「マルラン、色彩の王子」

講師：ロベール・ラペリエール氏

ラペリエール・バラ園, 国道6 38070 サン - カンタン - ファラヴィエ

講師：マリオン・ラペリエール

ロベール・ラペリエールの孫娘

シャルル・マルラン（1878-1960）は、19世紀初頭から今日まで、リヨン並びにその周辺地域のバラ生産者および育種家の途切れぬ継承が続いている中で、とても重要なつなぎ目の一人であり、バラ属についての彼の研究は、今なお大きな影響をもっている。

グルノーブルに近い Varcès に落ち着き、彼は多くの品種、いずれも繊細な、または明るい色のエレガントな花をもつ品種を作出した。彼の最初の作品は1925年に登場した。彼は、当時作出に従事していた唯一の鑑定家であった。彼は即座にエンジニアとしての職業をやめ、バラへの情熱に身を捧げた。

色と花の形だけが彼にとって重要だったので、彼は真のプロというよりも芸術家だった。彼の作品は多くのバラ生産者及び育種家に影響を与えた。誰もが多かれ少なかれ彼の作品から新しい発想を得た。彼は何も隠さず、反対に喜んで最新作を訪問者に見せた。マルランは教授のような人だったと言える。彼の助言や意見は高く評価され、実施されることが多かった。1935年からの20年間、多くのアマチュアとプロが、フランス人も外国人も Varcès を訪れた。シャルル・マルランが歓迎した人の中には、メイアン、ドリウー、ラペリエールがいた。これらの3家族の子孫は今もなおこの地域の10大育種家のメンバーとして活躍している。

彼の影響ははいまも存在している。なぜなら現在の品種にはマルランのバラとの遠い縁によって改良されている品種があるからである。